

いる。(坪谷忠雄)

**しさいじむしょ 資材事務所** 国鉄の地方資材部に所属し地方資材部の所管する業務の一部を分掌している機関。物品の検査・保管・配給・運用および処分ならびに委任調達品(地方調達品のうち地方資材部長から調達を委任されたもの)の準備計画および調達を担当している。設置箇所は、釧路、旭川、函館(以上北海道地方資材部所属)、盛岡、秋田(以上東北地方資材部所属)、高崎、水戸(以上関東地方資材部所属)、長野、静岡、金沢(以上中部地方資材部所属)、米子、岡山(以上関西地方資材部所属)、熊本、鹿児島(以上九州地方資材部所属)の14箇所である。

それぞれの資材事務所の担当する機関は、その資材事務所の所在地を所管する鉄道管理局および同局所管区域内に所在する支社の他の地方機関である。資材事務所の業務の一部を分掌させるため、所要の地に分室を置いている。(宮坂正直)

**シーサース・クロッシング** (英) seissors crossing

交差渡り線ともいう(図-1)。図-2の右分岐器からなる渡り線と、これに対照な左分岐器からなる渡り線とを重ねたものである。したがって2

つの渡り線の交差する箇所にダイヤモンド・クロッシングができ、4組の分岐器と1組のダイヤモンド・クロッシングからなる。シーサース・クロッシングの種類は、これに使用する分岐器の番数により呼ぶ。たとえば8番シーサース・クロッシングは8番分岐器を使用したもので、ダイヤモンド・クロッシングのクロッシング角は4番である。同一番数でも軌道中心間隔が異なるとクロッシングの長さ等が変ってくる。(木下勝蔵)

**しさん 資産** 資産の性格を資本との関係からみると、資本は企業に投下された貨幣価値額であるが、それ自体は具体的な存在ではなく抽象的価値である。しかし資本が現実企業活動をいとなむためには、何らかの具体的な形態を有するものがなければならない。このような資本の具体的な存在形態を会計上の資産という。すなわち資産は、貨幣支出の結果としての具体財であるが、貨幣そのものも現金・預金という姿で資産として存在する。資本の具体的な存在形態である資産は、前記のように固定資産その他に分れ、各個独立の価値的存在であり、したがって各個について直接に価値計算を行うことができるのである。これに対して、資本は抽象的な価値を示すものであって、単に計算上の大きさのみ存在し、個々の具体的な価値としての存在を有しない、したがってそれ自身について直接に価値計算を行うことはできない。いいかえると、資産と資本は、同一対象に対して与えられた2つの異なる概念であって、資産とは具体的組織としての生産手段であり、資本とはそれが如何なる財貨により構成されているかを問わず、単に生産手段の価値合計を意味するものである。国鉄は日本国有鉄道会計規程により、資産の区分として固定資産、投資資産、作業資産、流動資産、繰延資産および未整理資産がある。

1 **固定資産** 土地、建物、線路設備、電線路、工作物、車両、船舶、自動車および機器(別に定める機器名称鑑により定めるものにかぎる)の有形固定資産と、特許権、実用新案権、

特許実施権、実用新案実施権、地上権、地役権、水利権、鉱業権、営業権等(以上いずれも無償取得によるものを除く)の無形固定資産がある。この各資産は、その使用目的または性質によりつぎの様に区分されている。

(1) 鉄道施設、船舶施設、自動車施設、工務施設、用品施設、工場施設、電気施設、炭鉱施設

(2) 未働施設、未しゅん功施設、雑施設、受託施設

この固定資産の管理については日本国有鉄道固定財産管理規程がある。

2 **投資資産** 出資金その他これに準ずるものであって、内容は帝都高速度交通営団法第5条「帝都高速度交通営団に出資し得る者は、日本国有鉄道及帝都高速度交通営団の路線の存する地域を区域とする地方公共団体とす。日本国有鉄道は予算の範囲内において、帝都高速度交通営団に出資することを得」の規定により国鉄が出資しているものである。その他は同法第24条「日本国有鉄道は予算の範囲内において交通債券の引受を為すことを得」により、国鉄が\*交通債券の引受を行う場合のものである。

3 **作業資産** 貯蔵品、未成品およびこれに準ずるものであって、これらの運用に関するおもな規定としては、\*鉄道物品事務規程がある。

4 **流動資産** 未収金、連絡運輸による債権、預託金、預金、現金、仮払金およびこれらに準ずるものである。

5 **繰延資産** 災害その他による固定資産の巨額な損失額、その効果が次年度以降におよぶ測量調査費、鉄道債券の発行諸費用その他これらに準ずる経費の繰延額である。以上の経費は当該年度だけで負担すると、その年度の損益計算をみだすおそれのあるものであって、これを次年度以降に繰延負担させ経費の均衡を計るものである。

6 **未整理資産** 工事勘定における間接費回収不足額、貯蔵品のたな卸し差額等の未整理貯蔵品の相当額、その他これに準ずるものであって、工事勘定の回収不足額はこの部分については、固定資産の帳簿価格が過少に計上されているので、これを資産として修正増する意味で未整理資産に計上し、翌年度以降これを間接乗率に加減して、固定資産価格を修正する。また貯蔵品のたな卸し差額等は、その年度で処理すれば損失として経費に計上されるものであるが、これを欠損として処理確定するに至らないものを、未整理資産として翌年度以降に繰出すのである。(中川登代雄)

**じしゃくしきこうかんき 磁石式交換機** (英) magnetic exchange 磁石式電話機を設備する加入者を収容する交換機で、その通話電源と信号電源を各加入者の局部電池および磁石発電機によっている。この方式の交換機は作業が幾分面倒であるが、機構が簡単で設備費がやすく、かつ交換機の保守も容易であるため、比較的加入者数が少なく通話が繁忙でない箇所に使用されている。

現在国鉄においては主として1台1座席50回線用単式交換機が設備されているが、単式であるため台数を増すごとに室内中継線を必要とし、3台以上を並置することは回線の収容能力の低下と、作業が繁雑となるために不適当である。(図-1、図-2はその外観および正面を示す。)

加入者表示器および終話表示器は主として管状表示器を使用し、電磁作用により動作し、呼出し・終話を表示する(図-3はその外観を示す)。すなわちシャッター(またはドロップ)は自己の重量により常に下方に落下しようとするのをかぎでさきえて、いま電流が電磁石に流れると接極子が吸引(きゅういん)